

ローコード開発宣言

1. ローコード開発の価値は、生産性と保守のしやすさの向上です。
2. ローコード開発の成果物は、「動く設計書」です。
3. ローコード開発では、開発者は業務のニーズに集中できます。
4. ローコード開発が目指すのは、全員参加型のシステム作りです。

ローコード開発宣言の背景となる原則

1. ローコード開発の価値は、生産性と保守のしやすさの向上です。
ローコード開発では、設定や簡単な操作だけで、設計から実装・動作確認まで行えます。また、設定だけで実現できる機能はテストが不要となります。
開発とテストの時間を短縮できるため、少人数で開発と保守を一体的に進められ、長期的なシステム運用が可能になります。
2. ローコード開発の成果物は、「動く設計書」です。
ローコード開発では、設計した結果がそのままアプリケーションとして動作します。そのため、設計と実装が乖離することがありません。また、どのように作られているかが分かりやすく、問題の修正も簡単です。
3. ローコード開発では、開発者は業務のニーズに集中できます。
ローコード開発は複雑な実装作業を簡略化するため、開発者は業務の要件の理解や、その実現に専念できます。また、ローコード開発では、簡単に動く画面プロトタイプを作った上で、業務の要件を確認できます。
これにより、ビジネスのニーズに迅速かつ正確に対応できます。
4. ローコード開発が目指すのは、全員参加型のシステム作りです。
ローコード開発を利用すれば、プログラミングの知識がなくても業務アプリケーションの開発に参加しやすくなります。
これにより、開発を他人任せにすることなく、必要なものを自分たちで用意する主体性が生まれます。また、開発と保守を分けないチーム体制により、最初から完璧な仕様を求めるのではなく、運用しながら皆で仕様を見直す柔軟性が生まれます。結果として、変化に強いシステム作りに貢献します。

宣言発行元：ローコード開発コミュニティ(<https://www.x-rad.jp>)

ローコード開発宣言 発行経緯

ローコード開発コミュニティは、超高速開発コミュニティとして 2013 年発足以来、ローコード開発の普及・啓発活動を行うことでローコード開発の認知度向上に努めて参りました。

ローコード開発は 2024 年現在すでに認知され、システム開発の手段の1つとして定着しました。しかし、名前は認知されたものの、ローコード開発の本質的な価値がシステム開発に関する全ての人に伝わっていないと考え、ローコード開発コミュニティは、この度、ローコード開発宣言を発行するに至りました。

協力： ローコード開発宣言検討分科会メンバー(氏名順)

- ✓ 安藤和美(USP 研究所)
- ✓ 木村毅(インテリジェント・モデル)
- ✓ 新居雅行(INTER-Mediator 開発者)
- ✓ 贄良則(ジャスミンソフト)
- ✓ 堀井大砂(SCSK)
- ✓ 宮崎陽子(キャノン ITS)
- ✓ 渡辺剛(マジックソフトウェア・ジャパン)